

不登校児童生徒への支援と学びの保障を

答 学びの継続と社会的自立を支える



西銘 多紀子 議員



問 不登校の現状と支援体制を問う。

教育長 令和8年3月末時点の不登校児童生徒は、小学校118名(3.6%)、中学校98名(6.4%)。相談員や関係機関と連携し、一人一人に応じた支援を行っている。

問 保護者への相談支援を問う。

教育長 相談窓口を周知し、支援体制の充実に努める。

問 新教育長の支援方針を問う。

教育長 不登校支援では、学校のみを目標とするのではなく、一人一人の状況や思いに寄り添い、学びの継続と社会的自立を支えることが重要である。相談体制の充実と関係機関との連携を強化し、児童生徒や保護者が孤立しない支援に取り組む。また、ICTの活用や学校外の学びの機会を充実させ、多様な学びの機会を確保す

る。今後も、一人一人が安心して学び、自らの可能性を伸ばせるよう、誰一人取り残されない学びの保障と寄り添った支援の充実に取り組む。

猛暑から子どもを守る

問 学校の暑さ対策を問う。

教育長 WBG T(暑さ指数)や気象状況を踏まえ、授業や活動内容を適宜変更している。

問 猛暑時の体育着登校の導入を。

学校教育課長 学校・生徒と議論し、近隣の状況も踏まえ検討する。

公民館サークルの魅力発信へ

問 49団体694名が活動する公民館サークルを支えるため、空調費負担を含めた活動環境の改善を問う。

生涯学習文化課長 空調費負担に関する利用者の意見を把握しており、活動しやすい環境づくりと空調設備の計画的な修繕・更新を検討する。



49団体の活動内容は
こちら



がん患者に寄り添う支援へ

問 制度利用者の声をどう生かすか。

国保年金課長 利用者の意見を伺い、今後の事業に生かしていく。

■4年間を振り返って

多くの出会いと学びに恵まれ、全力で取り組みました。心より感謝申し上げます。